

あなたの創意と工夫で

# 活力ある

# マチづくりを目指す

## 一村一品運動とは

### 個性的な 地域社会の創造

「一村一品運動」の話題が、テレビや新聞などで取りあげられています。  
ご存知のようにこの運動は、道が提唱したもので、地場産業を掘り起こし、地域の活性化を図っていくというものです。

「一村一品運動」というと、どうしても特産品づくりのイメージが強くちがちですがこの運動のねらいは、特産品づくりだけでなく、地域に根ざした教育・文化・観光・福祉スポーツなど幅広い分野の中から、他に誇れるものを発見して、地域開発の活力にしていこうとするものです。

今月号では、ことしの二月に知事決定された「北海道一村一品運動の基本要綱」に基づき、この運動の概要について述べてみます。

北海道には、広大な面積に豊富な資源と美しい大自然があります。

しかし、いかに恵まれた資源や自然を持っていても、それを生かすことができなければ何もなりません。

豊かな資源などを生かし、本道を活性化させるにはどうしたらよいか。この運動はそんな問いかけから始まっています。

道の基本要綱には、「運動の背景」と「運動の性格」について、次のようにまとめています。

▼運動の背景  
①過疎による地域の活力低下  
全国で過疎地域振興特別措置法の適用を受ける市町村は千五百五十一。そのほとんどが町と村です。道内二百二十二市町村のうち七割は過疎地域です。

これらの地域では、二次産業の生産力が弱く、働く場がなかったり都市的機能が十分でなかったりしています。これらのことから、地場産業の掘り起こしと結びつけたマチづくりが求められています。

②定住志向の高まり  
ふるさとに住みたいと願う人たちが増え、その中でも特に若者のUターン希望が強まっています。

これらを満たすためには、働く場の確保と都市的機能の整備が必要です。

③資源を生かす  
本道は、豊富な資源を持ちながら、低次加工のまま道外などへ出荷されるものが多く、商品化や付加価値向上のための工夫と努力が求められています。

④オリジナルな文化の創造  
地域の風土に根ざした文化の創造と定着が求められています。

⑤競争意欲を盛り上げる  
自分たちの地域やグループだけの話し合いをこえて見聞を広め、交流の輪を広げながら、競い合って良いものをつくりあげる。

⑥急がず、着実に  
この運動は息の長い運動です。人づくりをはじめとしてねばり強く取り組みることが大切です。

地域の特産品や祭り、郷土芸能、ボランティア活動、スポーツなど、いろいろ思い浮べてみてください。

きつと、何かひとつくらいは市内に誇れるものがあるに違いありません。  
それらの誇れる何かと、地域のものだけに置いて置くのではなく留萌市の宝として育てていく。

そのことが「一村一品運動」に結びつく道となるのではないのでしょうか。



ます。

### ⑤自立化への努力

北海道は開発の歴史が浅く財政依存型、消費地型の経済構造になっており、自立化をめざすためには、意識の変革による地域の活性化を図ることが必要です。

### ▼運動の性格

この運動は、「個性的な地域社会の創造」をめざすもので、同時に「経済の活性化」に貢献するものです。

また、地域の人たちの発想と熱意による地域主体の運動であり、地域間や産業間で競い合いながら進める自立、自助の運動です。

この運動は、自分たちの住んでいる地域を、足もとから見つめ直すことから始まります。

みなさんの住んでいる地域に、一村一品といえるものがない、すでに育っているかもしれない。ただ、そのことやその価値に気がついていないだけなのかもしれません。

## 身近かな 生活の中から

この運動は、長く地道な活

動が必要です。種から芽、芽から葉、葉から茎へと、大きく育てていくためには、やはり、それなりの意識が必要になってきます。

市としても、水産加工品を始めミンク、音楽などの一品運動試行を進めています。

①知恵を結集する  
いろいろな仕事に携わる人たちで、マチづくりの目標に向かって話し合い、議論することが大切です。

②自らの発想と努力を大切に  
行政や補助金に頼るような考えだけでなく、自分たちの力で工夫し、努力してつくり出す意欲が大切です。

③ものづくりに文化性を  
ものづくりに文化性を必要ですが、地域の文化性を加味することによって、さら

さら